

イド嬢の説明に、右よ、左よと首ふり人形の如く、口をあき、目をきよろきよる。「バスの屋根がなかつたらなあ」とは無理な話しのようヨ。この苦痛に耐えている顔をパチリ、パチリと写されてガツクリ。だが、美しい滝と木々の緑は、私達を充分満足させてくれた。石北峠に着くとあたり一面の霧。じやがいも、いか、とうもろこしを焼いている何ともいえず香ばしい臭いが鼻をくすぐる。短い休憩時間の間にと必死の形相。しかし「臭いの割には……ネ。」

間もなく美幌。ここでクラス・メートに会い、とてもなつかしく、うれしく感じた。昼食の後、バスはオホーツク海を見ながら原生花園へ。見事に晴れ上つた空、岩つばめの巢を見、海を左に、ふと前を見ると知床半島の山々がくつきりと浮んでいる。全く何と形容したらいいのか、バスの中は一しきり歓喜の声がおこつた。てるてる坊主はテルテル様と格が上り、夜は「オミキ」を上ることに相成るのである。広々とした原野に牛や馬が遊び、彼方には、知床の山々、そしてオホーツクの海なりの音、数々の美しい素朴な、そして文字通り華やかな花々。この上もなく満足。それから、文部省指定とやらの天都山展望台へ。確かにすばらしい眺めではあるが、先の印象が強烈だつたので感激が薄れてしまった。

5時頃、網走湖畔の旅館着。夕食は待望のケガニ。夕食後、各自ボートに乗つたり、散歩したり。夜は先生方の部屋にお招きを受け、雑談とゲームを少々。

網走 → 弟子屈

短食 2ノ1

北海道入りして早くも5日目。空は晴れて気持の良い天気だが、涼しいのを通り越して幾分肌寒さを感じる。さすがは北海道だと1人で感心したりした。ガイドさんにたずねてみると、今年は例年より気温が低いとの事、旅行もこれ程涼しいと楽だと思つた。

6時50分に起床して、広間で朝食を取り、我先にとバスに乗り込んで、8時30分には網走湖荘の人々に別れを告げ、美幌峠に向つた。バスの旅も今日で4日目。メンバーも変わらず、ガイドさんとも顔馴染みになつて、皆和気合々。歌を歌つたり、おしゃべりをしたり、疲れも見せず、ガイドさんの案内の声に合わせて顔を右に向けたり左に向けたり、女

満別を通つていよいよ美幌峠に到着。遠くから見るとまるで芝生の様に見えたのは熊笹だった。皆、一目散に頂上まで走つて行つた。風がかなり激しく美幌峠に立つて、眼下に霧が流れてその晴れ間に見える美しい屈斜路湖を眺めながら、北海道に来て湖というものそれぞれ違った感じを与えると言う事を痛感した。青い湖に白い雲が映つて漂い、緑の木に包まれた島を真中に置く屈斜路湖は、何とも言えぬ印象を与えた。

美幌峠を下つて、屈斜路湖の南岸に突き出た和琴半島で休憩し、砂陽を通り、川湯でバスを降りた。砂浜に手を突込んで砂をぐいぐい掘つて行くと、手がつけられない程熱いお湯が出て来た。温度は60℃位との事。その砂浜にズラリと並んで、てんでに手を突込んで砂を掘つた。手にぬくもりを感じながらバスにもどり、北海道と言えば頭に浮かぶ、白樺林とエゾマツの群落にはさまれた道を進んで、もうもうと噴煙を上げる硫黄山で止まった。金属類はバスの中に置き、手やハンカチで鼻を覆つてバスを降りた。目の前に硫黄が岩の間から噴き出して、白煙を上げている様に思わず立止まった。風と共に熱気が来る程で、真近に寄つては見られない程の熱だった。鼻先辺に硫黄のムツとする様な臭を嗅ぎ、バスに戻つた。

次が波多に見る事が出来ないという摩周湖。第三展望台で用心の為、先にガイドさんが偵察に行き、ニコニコと帰つて来たのでワツと飛び出して一心にかけ上がった。

すっかり霧の晴れた摩周湖を一目見て、あまりにも神秘的で異様な感じがするのに思わずぶるぶると身振いしてしまつた。世界第一と言われる透明度を有する湖面は、じつと見ていると吸い込まれそうで恐ろしかつた。しばらく見ているうちに霧がかかつて何も見えなくなつたのには驚いた。第一展望台で再び下車し、ゆつくりと摩周湖を見た。波一つ立たぬ湖面にポツンと小さな島があり、それが又、一段と憂いを秘めて、見る者に寂々とした孤独感を与えた。摩周湖を十分に見る事が出来たため、皆満足し興奮した顔を上気させ、今見た湖水の色や周囲の木々が映つて、暗い影となつた湖を頭に浮かべながら、今夜の宿である弟子屈温泉の白雲荘へと向つた。